


# こくりこ日記

高田昭子のb2evolution blogです

## アーカイブ: 2006年11月

### 2006/11/25

📅 22:23:17, カテゴリ: [日記](#), views: 546 

年々早くくるクリスマス。。。。



どうだんつつじが紅葉しました。まだ十一月だっちょうのに。はやばやと三人のサンタさんは屋根登りの練習中でした。近所のケーキ屋さんの壁でした。これは非難はしごではないのかな?ごくろうさまです。

## こくりこ日記

高田昭子のb2evolution blog  
[吸殻山383番地の家に戻る。](#)  
[中央1番地に戻る。](#)

- [最新](#) (キャッシュ)
- [最新](#) (キャッシュされない)

2006年11月				
日	月	火	水	木
			<a href="#">1</a>	2
5	<a href="#">6</a>	7	8	9
12	<a href="#">13</a>	14	15	16
19	20	21	<a href="#">22</a>	23
26	27	28	29	30
<< <				

- [最近のコメント](#)

## Heavy Hitters

- [Test](#) (20 visits)
- [Walking1日目。](#) (20 visits)
- [詩の歳時記-123 「桜](#)
- [詩の歳時記-56](#) (20 visits)
- [引用文-23・あきらめ](#)
- [詩の歳時記-117](#) (19 visits)
- [詩の歳時記-82](#) (19 visits)
- [花守](#) (19 visits)
- [かぼちゃな一日](#) (19 visits)
- [詩の歳時記-305 「夕](#)  
visits)
- [詩の歳時記-274 「あ](#)  
visits)
- [詩の歳時記-253 「柳](#)  
visits)

## 検索

- 全ての語
- いずれかの語



編集



## 2006/11/22

22:57:24, カテゴリ: [日記](#), views: 589

中也漬け?



フレーズ

検索

### カテゴリ

- All
- [百人百詩](#) (100)
- [詩の歳時記](#) (365)
- [詩日記](#) (20)
- [My Haiku](#) (49)
- [Walking](#) (13)
- [引用文](#) (31)
- [日記](#) (163)

選択

### アーカイブ

- [2015年11月](#) (1)
- [2015年7月](#) (1)
- [2015年5月](#) (2)
- [2015年3月](#) (3)
- [2015年2月](#) (2)
- [2015年1月](#) (3)
- [2014年12月](#) (2)
- [2014年11月](#) (2)
- [2014年10月](#) (3)
- [2014年9月](#) (2)
- [2014年8月](#) (2)
- [2014年7月](#) (2)
- [続き...](#)

### いろいろ

- [管理](#)
- [プロフィール \(admin\)](#)
- [ログアウト \(admin\)](#)

### このブログの配信

- RSS 0.92: [投稿](#), [コメン](#)
- RSS 1.0: [投稿](#), [コメント](#)
- RSS 2.0: [投稿](#), [コメント](#)

生ひ立ちの歌 中原中也

■ Atom: [投稿](#), [コメント](#)

[What is RSS?](#)

powered by  
b2evolution

I

幼年時

私の上に降る雪は  
真綿（まわた）のやうでありました

少年時

私の上に降る雪は  
霰（みぞれ）のやうでありました

十七—十九

私の上に降る雪は  
霰（あられ）のやうに散りました

二十一—二十二

私の上に降る雪は  
雹（ひょう）であるかと思はれた

二十三

私の上に降る雪は  
ひどい吹雪とみえました

二十四

私の上に降る雪は  
いとしめやかになりました.....

II

私の上に降る雪は  
花びらのやうに降ってきます  
薪（たきぎ）の燃える音もして  
凍るみ空の黝（くろ）む頃

私の上に降る雪は  
いとなよびかになつかしく  
手を差伸べて降りました

私の上に降る雪は  
熱い額に落ちもくる  
涙のやうでありました

私の上に降る雪に  
いとねんごろに感謝して、神様に  
長生したいと祈りました

私の上に降る雪は  
いと貞潔でありました

.....

中原中也の弟「中原呉郎」は医師であり、文筆家だったという情報をいただいてから、バタバタと古本をさがして「遺稿集」を読んだり、中也の母上の「語り」を読んだり、ちょっと中也を別の視点から見ることもなった。それで中也漬けになってしまっ、疲れた。。。しかし、この詩の背景はよくわかったような。。。

中也や呉郎は睡眠薬を飲んだことがあるのだろうか？ふっとそんなこと

を思ったりもした。どうしてかという、ご親切な友人が「睡眠薬は危険だから止めなさい。」と言うのだ。「痴呆になるから。」と。ヘンな説だと思うけど。。。この8年間ほど、ずーっとドクターと毎月相談しながら服用しているのだ。頑迷な「不眠」を甘くみないでほしい。「悪い奴ほど、よく眠る。」と言う説もあるし。。。わはは。

音もなく降りよ粉雪目蓋にも 昭子

• [編集](#)



## 2006/11/13

📅 15:12:56, カテゴリ: [日記](#), views: 551 📍

### 航空公園



昨日は所沢図書館に行くことになっていましたので、2時間程早目に出て、雨上がりの快晴のちょっと風のある寒い（形容詞多用！）航空公園を散歩。それから「航空発祥記念館」にも立ち寄りました。さまざまな飛行機の歴史を見ていると、「イカロス」の夢はここまで辿り着いたのだなあ、と思う。

かつてモンゴルで、ウランバートルの空港から南ゴビまで、オンゴロのプロペラ機に乗って行ったことなども思い出しました。シートベルトはこわれている。着陸ともなれば「どこへでも、どーぞ。」と言わんばかりの広さである。ニアミスなど絶対に有り得ないが、飛行機自体が危ういのであった。お印ほどの空港はあるが、飛行機を降りたところから、ずー————と草原であった。



冬の夜イカロスの夢とけぬまま

昭子

• [編集](#)



## 2006/11/11

🕒 21:37:07, カテゴリ: [日記](#), views: 570 🇯🇵

立冬を過ぎて。。

ようやく昨夜からの雨は止んだようです。今月に入って早々に、思わぬことが急に繋がりはじめて、古書店で本をさがしたり、知合いの編集者に資料を頂いたり、バタバタとした。読みあげたばかりの「アイヌ神謡集」も放り出したままだった。とりあえず「ふくろう日記」の方に一段階は書けたと思う。

ちょっと守備範囲を広げすぎたようですが、実はわたしのなかですべては引きずり続けているテーマでもあるので、ここで一気に押し寄せてきただけのことなのだろう。疲れた。。

明日は快晴らしい。気分転換ができそうだ。しかし寒さも来るらしいが、  
外出する約束（^^）。

昨日撮った菊の花。。





血縁の流れはやまず菊の色

昭子

• [編集](#)



---

**2006/11/06**

---

🕒 22:05:16, カテゴリ: [日記](#), views: 561 🇯🇵

十三夜

えーっと。。昨夜が十三夜だったのかな？



秋の川。。。せせらぎの音。遠くに祭りの気配。。。。



ううん。なんだかね。急激な読書の方向転換が開始されてしまった。。  
新たな、しかし遠い時間との出会いというか、ある二つの世界がそこで繋がったというか、まだ頭の中が整理できないけれど、いつかきちんと書けるだろうと思う。。。わけわかんない独り言。。。

秋の川木の橋かけてゆらゆらと 昭子

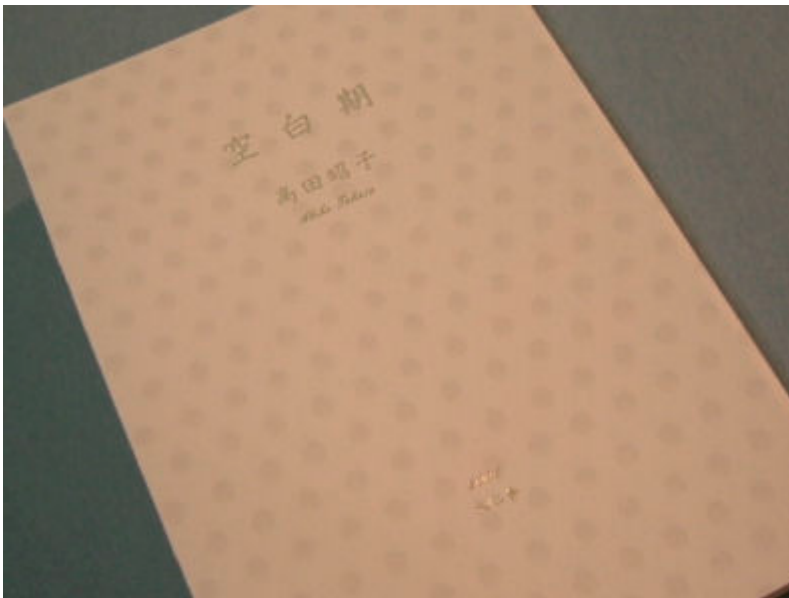
・編集



## 2006/11/01

🕒 14:43:38, カテゴリ: [日記](#), views: 1018 🇯🇵

秋の写真展と朗読会



詩集「空白期」を出してから、もうわたしの詩集ではなくなって、とても幸福な子供のように思わぬ道を歩きはじめています。これからしばらくは



この「幸福な子供」でいたいと思う。(詩集の画像は水仁舎の北見さんのブログから盗んできました。この肖像権はどこかな???)

さて、二十九日には、桐田さんと一緒に渋谷で鈴木志郎康さんの写真展を観ました。去年も同じ時期に同じ場所で同じ面子、そして同じく「魚眼レンズ」のお写真を楽しみました。志郎康さんはわたくしの「志郎康さんの〈お財布事件〉の現場のお写真ありますか?」などという失礼な質問にも、にこにこ地図まで出して応えてくださいました。

その後、紅茶をいただきながら、しばしお話。志郎康さんは、かつて手塚治虫の漫画について書いていらしたことがあって、「おどろきましたね。鉄腕アトムの両親は、子供よりも後に生まれているのです。」というお話に、おもわず笑いました。

写真展の様子はここ↓をご覧ください。志郎康さんの許可を頂いて、わたくしも写真を撮らせていただきましたが、あんまり下手でお見せできませんぬ。

<http://www.haizara.net/~shirouyasu/2006syasinten/2006syasinten.html>

それから広尾の東光寺に行って、野口田鶴子さんの朗読「宮沢賢治・風の又三郎」吉田文憲さんのレクチャーを聴きました。くわしいことは、桐田さんが「吸殻山日記」に書いていらっしゃる。そちらをどうぞ(^^)。そして、最後は「どっどどどう」と呑むのであった。。

魚の眼となりて秋風聴いている 昭子

[8 コメント・編集](#)



Original template design by [Francois PLANQUE](#).

